

■ 提出作品（minimal）の評価のポイント

女子美サウンドデザイン演習

・仕事の丁寧さ

- データ作りの丁寧さ（例：音データに不用意なタイミングのズレがないこと、など）
- 音楽や音素材の美しさへの意識が強いもの（例：何度も聞き直しながら作られたもの、など）
- 映像とのリンクへの最低限の意識がみられること（例：両者の長さを合わせる、など）

・〈自然さ〉と〈意外さ〉のバランスをもった音楽性

- 旋律・和声・リズムなどの音楽の流れにおいて、〈自然さ〉と〈意外さ〉のバランスがあること
- 自然さ = 統一感、 意外さ = 変化 とも言い換えられます。

・音楽全体を通じて「こだわり」が感じられるもの

- 逆に述べると「どうしたらよいかわからない」等の姿勢とともに現れる〈混沌〉や〈適当〉がないこと。

「どうしたらよいかわからない」等をさけるために、最低限守ること4つ

1. リアルタイム入力では、「クオンタイズ」をかけること。発音タイミングの無意味なズレを避けること。
2. 〈統一感〉を得るために、各パート内では「旋律の反復」を用いること（同一リージョンを並べること）。
3. 第一パートをよく聞くこと。例えば鼻歌で歌える程に、フレーズのリズムと旋律の特徴を理解すること。
4. 「Dドリアン・スケール」（レ音から上のレ音までの白鍵）をつかうこと。黒鍵をつかわないこと。

※ 作曲とは音の組織化です。「集団授業で初学者の美大生が短期間で音楽をつくる」試みを実現させるには、私はやむおえず上記の条件が最低限必要と考えました。一方、もし上記からあえて逸脱して作るならば、その人を「独自の音の組織化」に挑戦した人ととらえます。私はそこまで求めていませんが。それはとても困難な作曲になりますが、その際は、自ら挑戦したわけですから、決して「どうしたらよいかわからない」とは言わないでください。また個人対応のときには、「どのように音を組織化（秩序化）」したか教えてください。興味があります。